

# 富山県でみられる海陸風の研究

高岡市立中田中学校 小杉誠風（2年）

## はじめに

海沿いに遊びに行ったとき、いつも風が強いのを不思議に思っていた。理由を調べると海陸風という地域限定の風があることが分かったので、どのような風なのかを詳しく調べようと思った。

## 研究の方法

気象庁ホームページから過去の県内アメダス気象データをダウンロードし、Excel を利用して解析し、グラフを作成した。また、観測地点周辺の地形を国土地理院の電子地図で調べ、関連性を調べた。

海陸風発生の有無は、晴れている夏の日で、昼間(11時～16時)と夜間(23時～翌日4時)で、風向が逆になっていることから判断した。2019年の海陸風発生日として、8月5日～9日、14日を特定した。

## 結果

海陸風の向きを調べるため、沿岸地区のアメダスデータを調べた。下表を使って風向を数値化し、風速を○の大きさで表した図1を作図した。

東	東北東	北東	北北東	北	北北西	北西	西北西
8	7	6	5	4	3	2	1
西	西南西	南西	南南西	南	南南東	南東	東南東
0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7

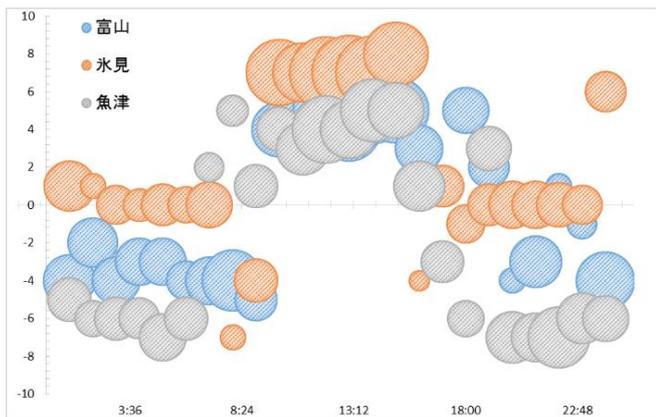


図1 2019年8月14日の沿岸部地点の風

昼から夜になると風向は変わるが、場所によって違いがあり、富山では北から南、氷見では東から西、魚津では北西から南東であった。

## 考察

海陸風の吹く向きが場所によって変わるのは、場所によって海岸線の向きが違うからだと考えられる。また風向は、海岸線に垂直になると考えられる。



図2 県内アメダス観測地点

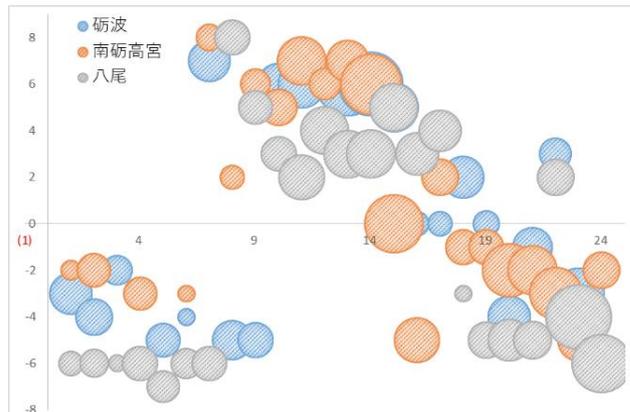


図3 2019年8月14日の内陸部地点の風

図3のように、富山県内の内陸部でも海陸風が見られる。このような日は、富山県全体で海陸風が発生していると思われる。また南砺高宮や八尾などの山際の地域の風速が強いのは海陸風と山谷風が合わさっているためだと思われる。また、上市で海陸風が見られなかったのは、観測点がある上市町東種は谷に位置し、海陸風が届かなかったためだと思われる。

## おわりに

海陸風は、海岸線と垂直に吹くことが確認された。また、海陸風と山谷風が重なって、富山県内全体に広がっている様子が分かった。

今後は、各地点の海陸風の状況を詳しく調べたり、実際に中田中学校の屋上に観測装置を設置して調べたりすることで、富山県内全体で発生している海陸風の状況を明らかにしていきたい。



図4 校内観測装置の設置

## 謝辞

本研究を指導していただいた顧問の岩寄先生に感謝いたします。また、観測装置、ソーラー電源、データ転送装置には、一般社団法人 WNI 気象文化創造センターの第九回気象文化大賞の助成を活用させていただきました。

## 参考文献

- 気象庁 気象庁過去の気象データ検索  
<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>
- Wikipedia 海陸風-Wikipedia  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/海陸風>